

これまでには無かったクルーズガイドブック!

バミューダ編



アドバンスド・マリン編集

最新の現地情報が満載

これまでのガイドブックには掲載されていないクルーズを中心に船旅名人が実際の体験からレポートしていますのできっと新たな発見があるはずです。

これまでの常識を打ち破る旅行プランの強力な助っ人

海外旅行に行く場合の手順を詳細に記載したはじめてのガイドブック! 航空会社、船社の簡単選択も掲載、くわえて最新の時刻表をも添付することで具体的にプランを作成できるようにしてあります。



バミューダの概要

位置	北緯32度20分,西経64度45分
面積	58.8 平方kmで東京都の足立区 (53,2平方 km)より少し広い程度
周囲距離	103 km (東西両端間を自動車で行くと約1時間半ほどでした)
人口	63,503 名(2001年7月現在)
人口増加率	+ 0.74% :出生が1000人当り12.16人に対して死亡が7.42人
平均寿命	男性が77.12才で女性が79.06才
人種構成	黒人58%, 白人36%,その他が6%
人口構成	0-14才 : 19.4% (男 6,091 ;女 6,230) 15-64才 : 69.43% (男 21,783 ;女 22,309) 65才以上: 11.17% (男 3,073 ;女 4,017)
労働力	35,296名 (1997年度) 内訳 :事務職23%, サービス職 22%, 労働者 17%, 専門・技術職 17%, 管理職 12%, 営業職7%, 農・漁業2% (1996)

その他の情報

祝日	1/1 新年、3月下旬 イ - スタ - と4月初旬にかけて 聖金曜日、5/24 バミュ - ダディ、6月第 3月曜日エリザベス女王誕生記念日、8月第1月曜日前の木曜 カップマッチ / ソマ - ズディ、9月第 1月曜労働記念日、11/11 英霊記念日、12/25-26 クリスマス
インターネットサービスプロバイダー(ISPs)	20 社(2000年)
インターネット使用者	25,000 件(2000年)
電話回線数	52,000 (1997年)
ラジオ局数	AM 5, FM 3 (1998年)
テレビ局数	3 (1997年)
GDP	購買力21億ドル(2000年度)
GDP成長率	1.5% (2000年度)
輸出	\$5,600万ドル (2000年)
輸入	\$7,390万ドル (2000年)
インフレ率2.7%	年率2.7% (2000年度)
電力消費	5億1150万kWh (1999年)
年間訪問観光者数	36万人 :観光は年間GDPの28%を占める最大の産業で北米からの客が84%となっている。

バミューダの概略

バミューダ諸島

大小360の珊瑚礁で出来た島々からなっていますが最大の島がハミルトンのあるバミューダ島で、そして今では橋で陸続きになった隣のセントジョージ島とノーザンセット島そして南北アイルラント島等の島々を合わせていわゆるバミューダと呼んでいます。

バミューダの形

丁度キーホルダーの先にある金具の形に似ていて東の端には2000年にユネスコの世界遺産に登録されたセントジョージの町がそして西端の北アイルラント島にはロイヤルナバルドックがあり中心に首都ハミルトンが位置しています。

島の特徴

火山活動の後で出来た珊瑚礁の島だけに最も広いところでも幅3kmしかなくまた、最大高さも海面76m程度で細長く低く湾曲した島となっています。

世界で2番目の英国直轄植民地で首都はハミルトンですがちゃんと独自に**通貨を発行しています**。

詳しくはこのあとのバミューダの歴史などを参照してください。



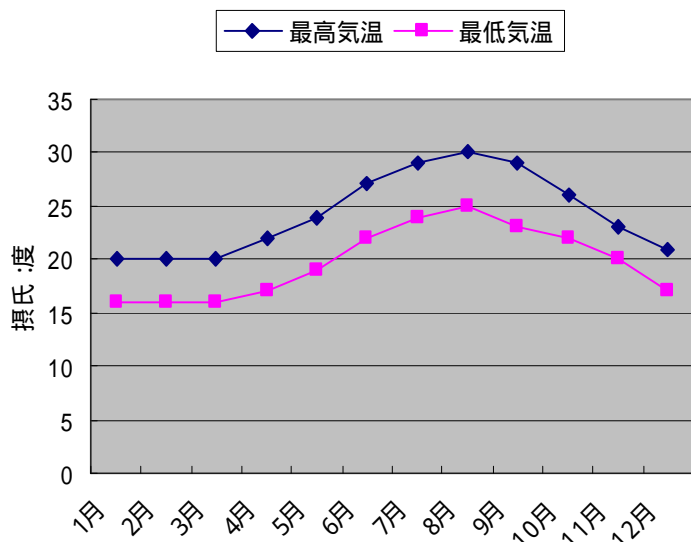
通貨について

バミューダ・ドル(Bermuda Dollar)略号はBD\$がありますが、BD\$1=US\$1と米ドルにリンクしているばかりか実際は米ドルが流通貨幣。

滞在中バミューダドル紙幣とコインが一、二度レストランのおつりとして混じってきたぐらいで、米ドルが支配的に流通しています。ですから現地通貨は日本に持って帰るお土産に良いかもしれませんよ！

バミューダの気候

バミューダの年間気温推移



気温の推移を見ると丁度、日本の沖縄に近く、最低が1月2月の15、6度そして最も暑いのが8月で30度となっています。

海洋の影響も有って温度差は少なく過ごしやすいところです。

月降雨量についても1月2月の冬場に多いもののほぼ年間を通じて100 - 150mmで沖縄のように5月6月に250 - 300mmも降る事はありません。

つまり年間を通じて温暖な観光に適した場所といえます。

年中いつでも快適な島

冬でも暖かい日にはTシャツ姿などの薄着で表を歩けるとはいえ冬は、やはり水泳するには寒すぎますし風が強い日も多い。

ベストシーズン

そこで一応5月から10月がシーズンで米本土やカナダからの観光客で島はこの期間は混みますが、やはりこの季節がバミュダに行くなら一番最適。

そして6-8月の学校の休みやサマーホリデイシーズンが最も混む時で避け、そしてハリケーンを考えると結論として**ベストは5月-6月**、但し、ハリケーンは未定なのでOKと言う人には9月 - 10月がお勧めです。

更に、宿泊料金を考えると5月又は10月と言う事になります。

バミュダの雨

いわゆるスコールで黒い雲が来たと思ったらその雲の下にだけザーと降るタイプですから普通なら5 - 30分で止みます。また、このとき突風も吹いたりしますので風にも注意してください。

もちろん台風が近づいたりした時の雨風はこの限りでは有りません！

問題は湿気

残念ながら回りが海で雲の多い南洋の島ですから湿度の高いのは止むを得ないのかも知れませんが、でも夏場は気温が高い上に湿度が高く日本の夏以上です。

特に早朝や夕方に雨が多いバミュダ



天気に関するワンポイントアドバイス

波静かなピンク色の砂浜とブルーの海がよくバミュダ紹介の風景写真に出っていますが、あれはごく限られた場所でのほんの一瞬の風景で撮影されたものです。

先ほど紹介しましたようにハワイと同じで常に南洋特有の風が吹いていますし、雲も多くスコールがやってきます。ですから10分前と今とはもはや天気が全く違うことは日常茶飯事なのです。

ですから、今何と美しい風景と思った場所と時間に撮影しておく事が肝要です。もう2度と同じ風景には出会えない確立の方が高いのですから。

バミューダの歴史

その昔、海底火山の爆発によって隆起して島ができ、その後、陥没や侵食によって現在の形が作られた。

その後、他の火山島がそうであるように海底から切り立ったようにそびえる島の周囲には珊瑚礁が形成されて美しい現在の景観が完成したのです。

珊瑚日本の沖縄より緯度が高い地域に位置するバミューダではカリブ海ほど暖かくないので珊瑚の種類も堅い珊瑚34種類と柔らかい珊瑚24種類の合計58種類に限られています。

この島は最も幅の広いところでも3kmしかなくまた、最も高い場所でも海面からの高さが76mしかないのですが樹木も生茂っています。

1593年にカリブから北上して来たフランスの帆船に乗船していた英国人ヘンリーレイが座礁し初めてバミューダに上陸した人間となった。この後わずか10年ほどで食料、水、それに材木までが手に入れられるこの島の存在はあっという間に船員達の間を広まっていくなります。

サージョージソマーズ物語

1609年英国のプリマスから当時の植民地バージニアのジェームスタウンでインディアン騒動が起こり、同胞の救助を行う目的で派遣されたサージョージソマーズ提督だったが、彼の乗っていた旗艦シーベンチャー号は突然の嵐によって同行してきた8隻とはぐれてしまい珊瑚礁に乗り上げ座礁してしまったのである。

この偶然がバミューダをその後、英国の植民地にさせるきっかけになるのである。

幸にも乗組員10名の乗組員は全員無事でその後見つけた豊富な食料と水に加え豊富な木材資源によって彼らは壊れた船を修理できたのである。帰国後これらは報告され正式に1610年再度調査を兼ねて派遣来島したのである。1612年に英国領となった。

ソマーズは2度目の訪問で改めてバミューダの資源に着目ソマーズアイランドカンパニーを設立した。そして当時の英国王ジェームス1世から英国の法律にのっとった統治をすることで許可を得たのであった。つまりは植民地となった。その後、彼はこの地で亡くなり心臓はセントジョージにあるソマーズガーデンに埋葬されている。

初代総督はリチャードモア元船大工で教会とパジェット砲台を作ったことで知られている。

1630年：人口がはじめて3,000人を越えたが当時は英国人ばかりであった。

1749年：アフリカからの奴隷が増えていて人口の55%を占めるにいたった。

1815年：ハミルトンに遷都。

19世紀のニューヨークの食糧庫時代から現在まで

南北戦争の時代

ここは南北両サイドへの武器、弾薬、食料などの補給基地として存在意義を見出され貿易がバミューダの経済を大きく潤した。もちろん独立運動の動きはこの島にも影響を与えたが英国領に踏みとどまることで益々繁栄したのである。

既にこの頃には小型の帆船でもって他の島々へ日用雑貨品を運んでいたがこれが両陣営への運送にもつかわれた。

特にこの特産品であるタマネギとポテトは有名でその後1930年代まではニューヨークの野菜供給食糧庫とまで言われるようになっていった。

このために、バミューダと言えばタマネギの島とまで言われることになったのである。今もオニオンの名前が付いた場所、土産品そしてレストランメニューは多い。

観光地への変化

この島が、本格的に繁栄するには汽船の発達とその後の航空機の発達によるところが大きく、米国のニューヨークという巨大な経済都市から当時の船でもわずか約40 - 50時間、プロペラ式飛行機だと4 - 5時間で行き来が出来るこの島はニューヨーク近郊の市民にとって格好の観光レジャーの基地と大きく変貌していくのである。

世界の金融基地

現在では観光よりも保険、銀行のオフショア - 基地として経済的な基盤を作り上げている。

その後の簡単な年譜

1815年 :ハミルトンに首都をセントジョージから移転

1852年 :ハミルトンに初めて**ハミルトンホテル**が8月にオープン。

1870年 :ニューヨークにタマネギ、ジャガイモ、にんじん、ビートのニューヨークへの輸出開始

1873年 :ケベック汽船のオリノコ号が定期航路として就航し本格的な北米との往来が始まる。

1883年 :2本煙突で一等船客40名乗りの本格的貨客船が就航

1884年 :9月に2階建て200室の本格的なホテル“**プリンセスホテル**”がハミルトンの現在の場所にオープン、当時としてはビリヤード、カードルーム、スモーキングルームに加えて清水、海水バス、温冷水バス完備

1919年 :英国にファーンズバミューダラインが設立され“クイーンオブバミューダ”号でもって本格的な大型船によるバミューダ - ニューヨーク間の定期旅客航路が開始された。
既にこの頃タマネギなどの野菜輸出は下火で観光がこれに代わる産業になっていった。

バミューダへの交通手段（飛行機）

- バミューダは大西洋上の島国ですから当然のこととして飛行機か船で行くことになります。
- 飛行機で行く場合**
- 日本からの直行便がありませんので海外の国を経由していくことになります。一番便利なのがニューヨーク経由で時期にもよりますが1日4往復と最も便数があります。でも、ニューヨークからの場合アメリカン航空はJFK空港ですしコンチネンタル航空はニューアーク空港となって使用空港が違っていますので注意が必要です。
- その他では、ボストン及びアトランタからはデルタ航空が、そしてフィラデルフィアとワシントンからはUSエアーがそれぞれ1日往復しています。また、エアーカナダがカナダのトロントからそして英国領であることからロンドンからも英国航空が飛んでいますが多くは季節運航だったり週に何便かであったりして不便です。
- なおバミューダの空港のイニシャルはBDA、ニューアークはEWR、JFKはJFKそしてボストンはBOS、フィラデルフィアはPHL、ワシントンのロナルドレーガン空港はDCAそしてアトランタはATL、トロントはYYZとなっています。
- 残念ながら現在のところ乗り継ぎ便で行けるのは成田発の日本航空・アメリカン航空提携便を利用する以外に方法はありません。この場合もニューヨークJFKでの待ち時間が長く大変なのですがとりあえずフライトは以下の通りです。
- [成田12:00発JL6便 - JFK10:15着/JFK19:00発AA1444便 - バミューダ22:25着](#)
- 尚、ニューヨークとバミューダには時差が1時間あり早くなっていますので注意が必要で実際の所要時間は2時間10分です

ニューヨークからの航空機時刻表

アメリカン航空	ニューヨーク発	バミューダ着	バミューダ発	ニューヨーク着
(JFK空港)	AA686便		AA1443便	
	9:45発	12:55着	7:25発	8:35着
	AA1444便		AA415便	
	19:00発	22:25着	14:10発	15:20着
コンチネンタル航空	ニューヨーク発	バミューダ着	バミューダ発	ニューヨーク着
(ニューアーク空港)	CO1925便		CO1926便	
	9:00発	12:12着	13:05発	14:30着
	CO1927便		CO1924便	
	12:00発	15:12着	16:05発	17:30着

その他の都市からの空路	便名	出発地	頻度	バミューダ着時間
アメリカン	897便	ボストン	毎日	11:00
デルタ	211便	ボストン	毎日	12:10
デルタ	354便	アトランタ	毎日	15:42
USエア-	981便	ワシントン	毎日	11:34
USエア-	1535便	フィラデルフィア	毎日	12:37
その他の国々からの空路	便名	出発地	頻度	バミューダ着時間
エア-カナダ	942便	トロント	毎日	12:10
英国航空	2233便	ロンドン・ガトウィック	火、木、土、日	18:15

バミューダのキンドリーフィールド国際空港



到着

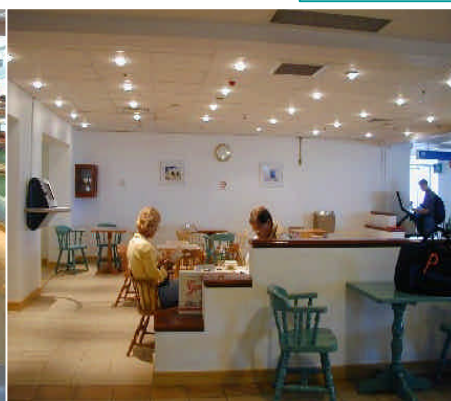
飛行機を降りてタラップを降り空港ロビー内に入るとバミューダの音楽の生演奏が迎えてくれます。

イミグレーションはゆっくりで少し時間が掛かりますので覚悟してください。帰りの航空券と宿泊先が明確で観光とはっきり分かればなんら問題なく入国できますが、でないといと意外としつこく聞いてきます。

出国

チェックインは各航空のデスクのところで行いますがバハマのナッソーなどと同じで、荷物はそのまま自分で中に運んで行きます。

するとバミューダの出国続いて米国のイミグレーションがありそこで今度は米国の入国手続きをやってしまいます。荷物は指示されたところに待っているスタッフに渡して終わりです。



クルーズ船を利用する方法

バミューダに行く場合、この方法が一番のお勧めです。

- 飛行機より安くて便利なクルーズ
- というのも、シーズン中の航空運賃が高い上にバミューダの主たる町の中にはホテルが少なく料金も高いからです。(料金はホテルのページ参照)
- 例えば首都ハミルトン市内に最も近いプリンセスホテルに7泊するとすればニューヨークからの往復航空運賃を加えるとシーズン中(6月 - 9月)なら軽く3000米ドルを越えてしまうのです。更に、これに現地での交通費、食費、エンターテインメント費用が必要となりますので非常に高い旅行となってしまいます。
- 一方、ニューヨーク港発 1週間のクルーズ船で行く場合、上述の費用全てを含む上に空港との間のタクシー代金(ニューヨーク市内から空港間は荷物の数とチップにもよりますが約40米ドル、バミューダ空港とハミルトン市内のホテル間でも約30米ドル)これも不要な上にバミューダの主要な町の中心部に接岸しますので島内での移動費用も不要です。
- そしてクルーズ船では船に戻れば1日5食(おやつに夜食を含む)に加えてカジノ(バミューダにはありません)やショーなど夜のお遊びも用意されているのですから比較にならないですね!
- 加えて、一旦ニューヨークで乗船すればあとは自分部屋に荷物を置いて、気軽な旅が始まります。飛行機だと2時間前に空港へ、しかも交通渋滞にもよりますがニューヨークだと1時間以上かかることもざらな上にチェックインも厳重これがバミューダからの戻りでも行われるのですから大変です。
- 最後に嬉しいのが費用で、上述のメリットに加えて通常の部屋であれば必ずクルーズ船利用の方が大幅に安いのです。参考までにクルーズ船での価格は800米ドルから2020米ドル(但し1室2人利用の場合のお一人料金で早割り内側の部屋からバルコニー付の部屋)からとなっています。

クルーズはこんなにすごい

一流のホテルと同等の部屋での宿泊とサービス

これでいて、旅行代金が飛行機の旅より安い。

乗船したときから荷物から開放
気軽な格好で旅行が始まります

毎日、船内では映画やショーなどのスケジュールが盛りたくさん。しかも多くは無料です。また、エヤロビ、エステ、プール、ジャグジー、アスレティック等何でも船内にそろっています。

豪華な食事が1日5食しかも料金込みです

3つの町 = 3つの港で着岸場所が便利な町の中心

ニューヨーク及び近郊の港を発着するバミュダクルーズ・スケジュール - 1

1)プリンセスクルーズ

<http://www.princess.com>

Tel: 020 7800 2468

“LOVE BOAT”のテレビ放映で一躍有名になった**パシフィックプリンセス号**ですが今年の10月でもって運航が中止されてしまいました。バミュダの3つの町を全て訪問する本船プランが最高だったのですが残念です。

今後の予定に関しては未定ですが分かり次第掲載いたします。

	パシフィックプリンセス	入港	出港
1日目	ニューヨーク		16:00
3日目	セントジョージ	13:00	翌日 07 :00
5日目	ハヨレトン	9:30	翌日 09 :30
6日目	ロイヤルナーバルドック	13:30	翌日 12 :00
8日目	ニューヨーク	7:15	

但し、2002.10で終了

2)セレブリティクルーズ

<http://www.celebrity-cruises.com>

Tel: 0800 018 2525

47,255総トンの**ゼニス号**が就航しています。ポイントは州都ハヨレトンに3日間も停泊しますのでナーバルドックだけフェリーかバスで訪問観光すれば問題なくてお勧めの1隻です。来年度も4月26日から10月18日まで同上のスケジュールで運航が予定されています。

さらに、姉妹船の**ホライゾン号**ですが同時に9月13日まで周遊コースを変えて来年からはフィラデルフィア発の就航を予定しますので大幅に便利になります。

	曜日	ゼニス号	入港	出港
1日目	土	ニューヨーク		16:30
3日目	月	ハヨレトン	9:00	翌々日18 :00
5日目	水	セントジョージ	9:00	翌日15 :00
8日目	土	ニューヨーク	8:00	

両船の違いはどちらの港に先に入港するかですが大きな町はハヨレトンだけでしかも島の中心に位置しています。その上ここからはセントジョージやロイヤルナーバルドックに向けた交通網も完備されていますので後の方が良いかも知れません。というのももう一度ロイヤルナーバルドックに行きたいと思ってもセントジョージからだと島の反対側でハヨレトン経由のバスで2時間近く掛かりますから大変です。

	曜日	ホライゾン号	入港	出港
1日目	土	フィラデルフィア		16:30
3日目	月	セントジョージ	8:00	翌日07 :00
4日目	火	ハヨレトン	9:00	翌々日16 :00
8日目	土	フィラデルフィア	8:00	

ニューヨーク発着のパミュダクルーズ・スケジュール - 2

3) ルエイジャンクルーズ

42,000総トンの **ルエイジャンシー**号が毎日曜日ニューヨーク発で2003年度は6月から9月までの間就航しています。フリースタイルクルージングですから堅苦しい格好などは無用ですし食事も勝手に好きな物を好きなときに食べられるのが本船です。しかもパミュダの3港全てに訪問するので言うことは有りません。

<http://www.ncl.com>

Tel: 0800 181 560

		ルエイジャンシー	入港	出港
1日目	日	ニューヨーク		16:30
3日目	火	セントジョージ	8:00	翌日07:00
4日目	水	ハミルトン	9:00	翌日11:30
5日目	木	ロイヤルナールドック	13:00	翌日12:00
8日目	日	ニューヨーク	8:00	

4) ロイヤルカリビアンクルーズ

48,563総トンの **ルデックエンプレス**号が日曜日発着で2003年は5月から10月までの間就航します。

ただ、セントジョージには寄港しませんしロイヤルナールドックでの停泊が長いのが気になります。というのもセントジョージは2000年に世界遺産に登録されていますし観光地もこちらの方が多からです。

<http://www.royalcaribbean.com>

Tel: 0800 018 2020

		ルデックエンプレス	入港	出港
1日目	日	ニューヨーク		16:30
3日目	火	ロイヤルナールドック	13:00	翌翌日12:00
4日目	木	ハミルトン	13:30	翌日13:00
8日目	日	ニューヨーク	8:00	

5) カーニバルクルーズ

2003年7月 8月限定ですが2001年完成の新造で86,700総トンとこの航路では最新で最大級の船を投入してきました。ただし、大きすぎて残念ながらロイヤルナールドックだけの寄港になってしまいました。

ハミルトンまでは近いですがセントジョージに行くには大変です。でも大きく新しいだけに同じ価格でもバルコニ-がついていたりして船内生活は快適です。

<http://www.carnival.com>

Tel: 020 7729 1929

		カーニバルプライド	入港	出港
1日目	水	ニューヨーク		17:00
3日目	金	ロイヤルナールドック	13:00	
4日目	月	ロイヤルナールドック		13:00
8日目	日	ニューヨーク	8:00	

ニューヨーク発パミュダクルーズ船紹介



セレブリティクルーズ

ゼニス号 :ドイツのメイヤーベルフト造船所で1992年に建造、47,255総トンで全長207m×幅29m、船客数:1,375名、クルー数:647名のクルーズ船



ホライゾン号 :上のゼニス号の姉妹船で1990年建造、全長207m×幅29mは同じですが、総トン数は46,811総トン 船客数:1,350名、クルー数:642名と少し小さい。

両船ともセレブリティのファンネルマークが目印。



ロイヤルカリビアンクルーズ

ルディックエンプレス号 :1990年フランスのアトランチック造船所で建造された48,563総トン、全長211m、船客数:1,600名、クルー数:685名の美しい船。



ルエイジャンクルーズ

ルエイジー号 :1988年フィンランドで建造 総トン数は42,000トンで全長217m×幅32m、船客数:1,518名、クルー数:630名で幅広の船体の特徴でフリースタイルクルージング。

カーニバルクルーズ

カーニバルプライデ号 2001年クバーナーマサ造船所で建造されたばかりの新造船で、全長292.5m×幅35.42mと大型の近代船、船客数も2,680名、クルー数961名と他の船より一回りスケールが大きい。

そして何と言っても船室の80%が海に面した部屋でその80%にバルコニーが付いているというからすごい。

船内生活なら5隻の中でダントツにお勧めの船ですが、残念なことに7,8月だけなのと大きすぎて寄港地がロイヤルナーバルドックに限定されていることです。



2003年お勧めバミューダクルーズ



ラディソンセブンスクルーズのセブンスナビゲーター号で行くバミューダ

2003年スタート!!

この本船を勧める理由

何と言っても世界最高のサービス!

クルーズ船の中でも最もラグジャリーな6つ星船でバミューダクルーズでは初登場。

1999年建造、28,550 総トン、全長170mのこの船は全ての船室がスイートルームで90%の部屋にバルコニーが付いています。丁度、日本の“飛鳥”とほぼ同じ大きさですが船客数490名に対してクルーの数は325名(対する飛鳥は船客数584名に対してクルー数270名)と船客数は少なくサービスのクルー数が多いいかにサービスの良いゴージャスなクルーズ船かが分かります。

しかもバミューダクルーズでは初めて、ニューヨークを水曜日に出港しハヨトには金曜日、土曜日そしてセントジョージには日曜日の合計3日間連続してバミューダに停泊しますのでゆっくりとバミューダの休日を満喫できるのです。

なお、ニューヨーク発 7泊8日バミューダ周遊クルーズは2003年5月に4回、6月は3回、8月1回、9月は再び3回が計画されています。

クルーズ料金は お二人一部屋使用で2,695米ドルからとなっていて、飛行機で旅行する場合の往復とホテル、食事、エンターテインメント全てを考えるといかに安くお徳かが分かります。

また、バミューダ発ニューヨークやフォートローダーデール発着のバミューダクルーズ等もありますので上手く利用すれば自分に適したクルーズを入れた旅行プランを計画出来ます。

バミューダウエディングもお勧め

ラディソンセブンスクルーズは今回のバミューダクルーズを始めるに当たってバミューダ観光局全面バックアップの元バミューダでの結婚式パックも同時に発売しました。勿論、ハネムーンにも最適です、

プランとしては土曜か日曜日に日本を出発ニューヨークで3、4泊して乗船というのが疲れたお二人にはぴったりでしょう!

バミューダの移動手段

Rent a Moped (Motor Scooter) レンタモペ?

日本と同じ左側通行で運転しやすいのですが残念な事にこの島にはレンタカーはありません。観光地では考えられないほど珍しくてすごいですね！

その代わりに有るのがスクーター (ほとんどが日本製の50CCで現地では略して**モペ** (正式名称はMOPEDつまり動く足という意味)と呼ぶ)

料金:2人乗りだと1日42米ドル、3日間108米ドルに保険料として15米ドルくらい。そして国際免許証とヘルメットの用意が必要です。(米国領などでは一切不要なのですが)

タクシー

4人と6人乗りのタクシーが町中を走っていますし主要なホテル、バス停、飛行場には必ず早朝でも待っています。

料金は平日と休日異なります、平日だと最初の1マイル4.8米ドルで、以後1マイル増すごとに1.68米ドルが加算されます。日・祝祭日では最初の1マイルが6ドルになり、以後1マイル増すごとに2米ドルとなってしまいます。

また、深夜料金(真夜中から早朝の6時まで)は加算料金が25%アップそしてスーツケースのような荷物がある場合荷は1つ当り25セントとなっています。

勿論チップは必要です！

結果、チップを除いて円換算では日本とほぼ同じかそれ以上ですから結構高くなります。

ただ、飛行場とハミルトン間は一応目安としてチップ込み約25-35米ドルでこれは距離と時間からも使う価値が有るかも知れません。

バスとフェリーの支払いは トークン:

むしろこちらの方が多用されます。トークンはニューヨーク地下鉄などでも前もってこれを買って切符の代わりに使用しますが、ここバミューダでもバス、フェリーなどに乗るとき現金での支払いはほとんど受け付けてくれません。

バス低近くの店ならどこでも売っています。もちろんお勧めは1日、3日間乗り放題のパスですが、この説明はまた後ほどに。



バス

ここバミューダでは路線バスがほとんど全島を網羅していて便利です。

ルートは全部で11もあり、料金は分割された14のゾーン別で3ゾーンまでの移動なら3米ドル、3ゾーンを超えると4.50米ドルです。支払いですが現金ならお札は受け付けませんしおつりは不可なので小銭の準備が必要です。でも多くの場合ホテルのフロント、バスターミナルやバス停近くの売店などでトークンを買って乗車するように運転手から言われるケースが多いですから1日又は3日間乗り放題のデイパスを利用することをお勧めします。

セントラル・バスターミナルはハミルトンのシティ・ホールの隣にあり、事務所の営業時間は月～金曜の7:30から17:30、土曜は8:15から17:30、日曜は9:15から16:45。

バミューダ案内

3つの町=3つの港

バミューダの主要な観光スポットは3つの港を中心に発展した町及びその近郊にあります。

その3つの港(町)とは2000年に世界遺産にも登録されたバミューダ発祥の地、**古都セントジョージ**、現在の首都**ハミルトン**そして英国の造船所跡地の**ロイヤルナーバルドックヤード**です。



セントジョージ

上の写真はセントジョージの港=町の様子です。1609年に英国の艦隊が嵐に巻き込まれ座礁、その時の旗艦シーベンチャー号の提督がジョージソマーズでこの地に初めて上陸、島の豊富な食糧、材木に残っていた材料をかき集めて作った2隻の船で無事に英国に帰還。その英国2番目の植民地として発展していくのですが彼の功績にちなんで名前が付けられています。



ハミルトン

1816年に首都をセントジョージから移転し現在では押しも押されぬ首都に成長し、金融・保険のオフショア基地として世界中からお金が集まってくる町にもなっています。上は港の様子ですが、ここも港=町で船が接岸している岸壁の直ぐ横に中心地と言うべきショッピングや飲食店が集まっています



ロイヤルナーバルドックヤード

ここには、海洋博物館やドック跡そして要塞もあって3つの島内の港の中でも異質文化が見られます。反面それ以外は何も無くのんびりとした景色が売り物の港ともいえます。

一方で大型船は今でもこの港しか入港できませんので上の写真に有るようにクイーンエリザベス号も又カーニバルの大型船も少し島内見学には遠くて不便なこの港に接岸します。

セントジョージ(St.George's)

1609年突然の嵐で他の仲間の船とはくれたジョー・ジソマーズ提督(Admiral Sir Geroge Somers)の乗船する旗艦シーベンチャー号が座礁し彼がはじめて上陸したのがこの地でありその彼の功績をたたえて名前を冠し町の名前としたバミューダ建国の地である。

ジョー・ジソマーズは本来、インディアンの襲撃で救いを求めていた英国最初の植民地、バージニアのジェームスタウン(Jamestown in Virginia)へ人々を助けに行く途中であったが結局は1612年この島を英国の第2番目の植民地にするという違った意味で大きな貢献をした。

世界
遺産

セントジョージは2000年にユネスコより世界遺産に登録されました。

400年の時を越えてなお、人々が延々と当時の面影を残した建物が建つその場所に同化しながら生活してきた。これこそが世界遺産に指定された理由でもあり、この町に行くとい瞬タイムスリップして400年前が目の前に見える、そんな時が止まっているかのような錯覚さえ起こせる町それがセントジョージです。

場所の手狭さや島の東端に位置することから1815年には首都がセントジョージからハミルトンに移されましたが、かえってこれが現在まで変わらぬ景観と静けさを保つことが出来たのかもしれません。



セントジョージの町



高速フェリー

セントジョージへの行き方

(バス便) 片道トクン料金 ¥19

ハミルトンとセントジョージ間には経由地によって番号がNO.1.3.10.11のバスが走っています。最も短時間で結ぶのが10と11で景色も一番よく便数も多くお勧めです。

また、空港には4つ全ての番号のバスが立ち寄ります。でも、乗り場は一個所ですので飛行場からの乗車時は必ず行き先を確認することを忘れないで下さい。

(船 高速フェリー便) 往復料金 ¥119

4月から10月までの限定

ハミルトン発が 9:30, 12:00, 14:00

セントジョージ発が 11:15, 13:30, 15:45

いずれも、ロイヤルナールバドック経由ですから本船でのクルーズも利用した周遊プランが可能ですし乗り場も町中直ぐですので大変便利です。

2002年度のフェリー時刻表は別表に掲載していますので参考にして下さい。

現地 :セイントジョージガイドツアー

自分で勝手に町を見学するのもマイペースで良いのですが英語が分かる方であれば定期的に世界遺産の町及びガーデンウォークツアーが開催されていますのでこれに参加するのも一考です。(所要時間 約1時間15分で料金はお一人\$24米ドルとなっています)

集合場所はキングス広場のタウンホール前で時間は火曜日が8:45、木曜日と土曜日が10:00となっています。

TEL:297-8090 予約不要、現地参加



(上)タウンホールはその昔セイントジョージが首都であったときに議会が開かれたところで日曜を除く毎日9時から17時まで無料で開放されていますから是非中に入って当時の様子を見学しましょう!

(左)キングス広場を囲むようにして建つ建物の一つで現在は観光案内所になっています。前の木製のものは昔のギロチンやさらし台を再現して展示してあるものです。ガイドツアーの時には実際に体験が出来、記念撮影にも最適。



デリバランス号

ジョージソマーズ提督の乗っていたシーベンチャー号が座礁した後、本船に積まれていた航海計器や大工道具、補修資材に最使用が可能な本船部材などに加え島から伐採した材木などで建造しこの島から脱出する事が出来た船が模倣作成展示中の船デリバランス号ともう一隻パティエンス号なのです。(年中無休で09:00 - 17:00、入場料は3ドル)

セイントジョージの歴史的な催し見学

月、水、木、土曜日の正午から行われるセイントジョージの歴史的な催し見学は見逃せませんよ。

特に昔の刑の一つである移動式ダッキングツール(右の写真)の片隅に座らされて海中に沈められていくさまはまさしくタイムスリップ、海賊時代の名残です。

もちろん希望すれば貴方も実体験できます。



セントジョージ(St.George's)タウン



セントペーター教会
St. Peter's Church

このタッカーハウスは1752年に建てられ18世紀後半(1775年 - 1807年)には当時の著名人タッカ - 総督(Henry Tucker)の屋敷として使用されていた。

現在は博物館として考古学的資料などが展示されている。

(平日(月 - 土)10:00 - 16:00)

入場料 \$3ドル



Bermuda National Trust Museum
グローブホテル

ソマーズガーデン(Somers Gardens)

ここを愛したジョージソマーズにちなんで名前が付けられていて彼が亡くなった後、彼の生前の望により心臓と内臓はここに埋葬された。ガーデン自体は1920年に作られた。

その場所には記念碑が建っている。

年中08:00 - 16:00オープン、無料

現存使用されている英国国教会の教会としては西域地域で最も古く、1612年に木製の教会が造られその後1713年に現在の構造になった。タワーは更に100年後の1814年の建造である。墓石を見ると300年以上も前の年号が刻まれていたりして歴史を感じます。

1620年にステーツハウスが建てられるまでは植民地唯一の集会場でもあり当時の移住者達の心のよりどころでもあったのです。

中に入ると、今では骨董品に属する木製の椅子、テーブルなどの家具がそして内張りや天井が300年前にワープさせます。

(年中オープン、無料)



タッカーハウス
Tucker House Museum

グローブホテル内にあり1700年にサミュエル デイ(Samuel Day)総督によって建てられた。バミューダとアメリカ南北戦争関連の展示物やバミューダの歴史紹介のビデオなども見る事が出来る。

月 - 土 :10:00 - 16:00、入場料 \$4ドル



ソマーズガーデン
Somers Gardens

セントジョージハーバーと郊外



下の写真のクルーズ船が着桟している場所はオーデネンス島で、橋を渡ってその島の右サイドにはシーベンチャー号で座礁し最初にこの地に上陸したジョージソマーズの像(左の写真)がセントジョージハーバーに向かって立っています。



他のセントジョージ近郊の観光ポイント

セントキャサリン砲台 (Fort St. Catherine)

1614年建造の最も古い要塞の一つで17世紀から19世紀にかけて幾度となく補強改築され現在の重厚な城砦に仕上がっていったのです。

*** 展示の立体小型模型 (透視画) は訪れた人たちに島の歴史を思い起こさせます ***

ここではオーディオビジュアル使用したバミューダの全ての城砦の説明に加えて当時の銃や刀類それに保管されていた英国の貴金属宝石のレプリカが展示されています。

セントデイビット島

ここは訪れる観光客も少なく比較的余り知られていない場所です。そして来る途中には1995年までは米国海軍に貸されていた区画が有るサウスサイドの横を通ります。

その後、カーターハウス Carter Houseの横を通過すると1640年ごろの建築と思われるセントデイビットで最も古い住居や写真ポイントであるセントデイビット灯台にもいかれると良いでしょう。

そこはバミューダでも最も美しくそして隔離された場所でも有ります。



タウンカット水道

セントジョージの港に入港する時に通過する水道、これがタウンカット水道です。

左写真の通り非常に狭くて岸で手を振りながら声をかけてくるのが良く聞こえます。

出来ればクルーズ船の入出港時に行き直ぐ近くを通過する様を見れば最高です。

お勧めの穴場です。

セントジョージ(St.George's)近郊

クリスタルケ - ブ (Crystal Caves)



行き方

1番か3番のバスだと左下の写真のように入り口に続く道にバス停があり都合が良い。

しかし便数が少ないので少し余計に時間が掛かるので10番11番のバスで先に香水工場かガラス工房を見てから行くのも一計です。

これらの観光名所や旧跡はベイリーズベイポストオフィス (Bailey's Bay Post Office) ロータリ - を中心にして徒歩圏内で集まっていますので一度に回るのが賢い方法。

結局はセントジョージに向かうバスならどれもOKと言う事ですが。

洞窟の説明

この洞窟の発見は1907年にボール遊びをしていた二人の少年のボールが偶然穴から地下に転がり落ちていったことに始まります。 とにかく地底湖の幻想的な美しさは必見です。

見学入場は小さな受付の有る下の写真の建物でまず入場券を買い求めます。すると、ある程度グループになるまで周辺のベンチに腰掛けて待つ隣接の小さなお土産ショップで時間を過ごすように言われます。

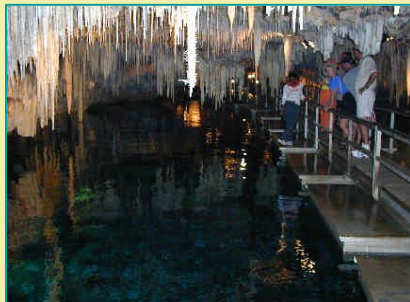
中へは案内人がまず自己紹介と注意事項を言います。そしてオリのような洞窟入り口の鉄棒製格子ドアを開け中へと誘導します。

下の写真のように中は結構、狭い上に急な階段が相当続きますので油断してはいけません。



洞窟の自体は、余り奥域もなく大きくありません。しかし、かえって何万年もの年月をかけて成長してきた鍾乳石も触れられる距離にあり感動します。それにしてもこんなに小さな珊瑚礁の島にクリスタルを想像させる美しい水を蓄えた神秘的洞窟があったのです。 **入場料** 大人10ドル、5 - 12歳は6ドルで、ほぼ日本の鍾乳洞などと同じです。

ところで2001年夏、近くの姉妹洞窟ファンタジーケーブ (Fantasy Cave)もオープンし、両洞窟の共通入場券も発売されています。 **料金は大人が16ドル、5 - 12歳は8ドル**となっています。



ハミルトン(Hamilton)

まずは、バンクオブバミューダ横の**フェリー乗り場**を訪れましょう。

このターミナル横には**観光案内所**もあって地図やガイドブックに加えてフェリーの時刻表なども手に入ります。そしてここでバス、フェリー共通の1日 11ドル、3日 23ドル、7日間 36ドル乗り放題のデイ・パスを買っておくことをお勧めします。

ついでに銀行の裏手にも小さな**アルブイズポイント公園** (Abuoy's Point) が海に面してありますので散策します。湾が見渡せますし右手にはピンク色のプリンセスホテルも見えるはずです。

つぎに、クルーズ船が接岸する岸壁に沿って約1kmの通りが**フロントストリート**ですからこの**メインストリート**を海に沿って歩いて行きます。



このメインストリートに面してたくさんの**ショップ**がそして**デパート**(日本のデパートをイメージしないで下さい、2階までのこじんまりしたものです)などが並んでいます。

そして、多くのショップの2階には港を一望できる**カフェテリア**、**レストラン**などが入居して並んでいます。

その多くは道に面してオープンエアですから思いっきりバミューダらしい雰囲気での飲食が楽しめます。

フロントストリートをはさんで海側には下の写真のようにクルーズ船が着岸する岸壁と船客が乗り降りするターミナル(と言ってもたいしたものではなく小屋みたいな建物)があるのです。

つまりはクルーズ船と町並みの間の道がフロントストリートと言うわけです。



ハミルトン (Hamilton) 市内

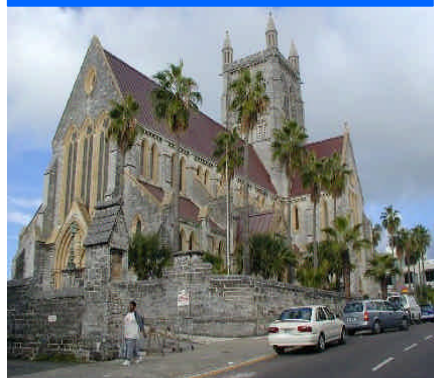
ハミルトンの町といっても縦方向に300m、横方向に約1kmの中にすっぽりとおさまる広さです。写真はそのまま位置関係を保って掲載してあります。

シテイホール・
アートギャラリー



バスターミナル

カテドラル



クルーズ船が入港するとフロントストリートの海側は次のようにぎやかさ



フロントストリート

カテドラル横角からフロントストリート、そして海を見た風景で下り坂となっています



銀行や保険会社が立ち並ぶ
ピッツベイロード
(Pitts Bay Rd)

ハミルトンホテルもこの先にありますし、この道路の北側の歩道に面してご紹介したムーンゲートがあります。

よく利用する、フェリー乗り場はバミューダ銀行の東となりにありますのでこれを目印にすると分かり易い。

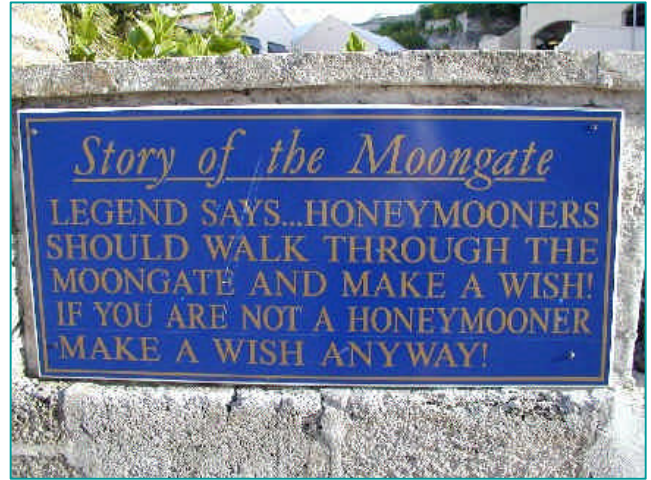
海側から見たフェリー
乗り場とバミューダ銀行



バンクオブバミューダ

とかく町を歩く基点としてはフェリー乗り場の有るここが、バスターミナルとなります。とにかく町でも目立つ存在でクルーズ船で海側から来た人々には忘れられない建物です。

ムーンゲート(Moon Gate)



右上の石版に書いてある言葉

Story of the Moon gate

Legend says honeymooner should walk through the moon gate and
Make a wish. If you are not a honeymooner make a wish anyway.

ここ、バミューダでは、島のあちこちにこの石を積み上げて作ったゲートが存在します。
気がつかなかった方もいたでしょうが、実はキンドリーフィールド空港内の搭乗待合所にもある
のです。(左下の写真)

実際、結婚したてのカップルが二人仲良く手をつないでこのゲートを潜り抜けるのを見た事が有
ります。意外な事にこの言い伝えと信奉は中国から伝わってきたと言われている

ムーンゲートの造り方教室



まず両端に基礎となる直方体の石を据え付けます(一段の場合も2段の場合もあります)。続いて45度の三角立方体をとがった方を外側にして置き、その後少しずつ外側が幅広の石4つを使って水平になるまで置きます。

これで下半分が完成です今度は上半分を両サイド同じく少しずつ外側が幅広の石8つを使って丸く作っていき最後の真上のクサビ状の石を刺す形でバランスを取ります。

ロイヤルナーバルドック (Royal Naval Dock Yard)



ハミルトンが湾の最も奥に位置するとすればその湾の入り口にあるのがここで昔は要塞があったところです。

その後、英国海軍の修理造船所として開発、利用され今ではイルカと一緒に泳げる場所として親しまれています。

上の写真はクロックタワーで現在はショッピングモールとして利用されています。

また、手前奥にはガラス工房があり自分自身で作品を作ることも出来るとあって、なかなか人気も有って半日観光をするには最適なところです。



ハミルトンとの交通

(高速フェリー)

お勧めはなんと言っても高速フェリーで所用時間は約30分とバスの半分程度で片道料金は4ドルです。日中は頻繁に往復している上にバス共用のデイクラスも使用できます。洋上からの眺めも最高です。

(バス)

でも、島を理解するには、やはりバスが便利です。NO7またはNO8番のバスで料金は片道4ドル。地図を見ながら名所旧跡を通って行きますので飽きることは有りません。

泊まる

はっきり言ってバミューダのホテルはオンシーズン中の料金が高い。リゾートホテルなどでは税、チップ別で250から600米ドル、また、ハミルトンにあるプチホテルでも料金は150米ドル程度からとなっている。

これは不動産が高いというより高騰しているのが主原因、それにバミューダへはクルーズ船で行くほうが豪華で価格的にも安く楽しめるというのが既に米国やカナダ人には定着しているこの場合、船に寝泊りするのでシーズン中でもホテル宿泊者は意外と少なく採算を考えると高い料金設定が必要なのであろう。

ホテルの選び方

リゾートで何も無いところでのんびりするならプライベートビーチを持つリゾートホテルが良く、アットホームな雰囲気ならB&Bやコンドもお勧め。でもやはり自分でバスなどに乗って島内観光などしたいしショッピングもという方々にはハミルトン近郊のホテルが良いでしょう。

また、冬場のシーズンオフ期間中には宿泊料金が大幅にディスカウントされます。

ワンポイントアドバイス

ホテルを選ぶ時忘れてはいけないのが方位とロケーションです。

ここバミューダでは南の海岸にはプライベートピンクサンドビーチを備えたリゾートホテルが建っていますが、ここだと日の出はきれいに見えますが

サンセットが見たい人は逆にナールドックやハミルトン側にいないと見えないので要注意です。

お勧め食事メニュー

お勧めはフィッシュチャウダーです。

バミューダでは定番のレストランメニューですから是非一度はお試ください。

白身魚のアラでスープを取ってこれに魚の身と地場の新鮮野菜(勿論、玉ねぎ、ポテトやトマト)を入れて数時間煮込んだものですが

ラム酒とカレーの香りがなんとも言えず食欲をそそります。

ここバミューダは世界の金融センターの1つ。このため日本の大手銀行や生保などもオフショア取引に現地企業を利用しています。つまりハミルトンにはこれらの金融ビジネスのために進出してくる企業がこぞってオフィスを求めた結果土地が高騰し宿泊ホテル料金も高くなったのです。

ところでバミューダと日本の新しい経済関係に関するニュース

英バミューダ社、金融特区参入に意欲

世界規模で損害保険事業を展開しているエース・グループ(*注1)傘下の英国領バミューダ島でキャプティブ(親会社専属の保険子会社)を運営しているエース・バミューダ社は現在、日本経済再生プランで計画されている金融特区に進出を検討中。

バミューダ政府のアドバイザーや委員も務めるロジャー・ジレット上級副社長らが来日、名護市の金融特区の視察をして沖縄の金融特区に参入したいという強い意欲を示しています。

(*注1)エース・グループの母体であるエース・リミテッド(本社・バミューダ、ブライアン・デュペロー最高経営責任者)は1985年にBMやGE、デュポンなど、米国の大手企業34社が共同出資するキャプティブとして設立。各種損保事業を吸収し、99年にはシグナ保険の損保事業部門を取得。現在、約50カ国に8000人の従業員が世界におり、国内には損保などを取り扱うエース損害保険がある。

一度は泊まって
みたいホテル

ハミルトン・プリンセスホテル (正式英文名 :The Fairmont Hamilton Princess)

住所 :P.O.Box HM 837,Hamilton Bermuda HM CX E-mail hamilton@fairmont.com

電話 :441 - 295 - 3000 予約電話 :1 - 800 - 866 - 5577 FAX :441 - 295 - 1914

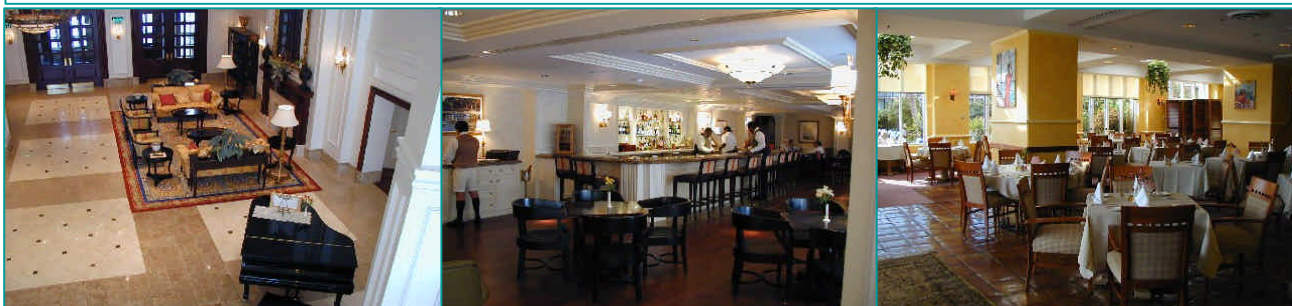


バミューダで最も有名なホテルでピンク色のこの建物はハミルトンでも際立って目立っています。ハミルトンに入港するとき遠くからこのピンクが見えるのですからクルーズで来る人たちにも思いでのホテルとなっています。

(歴史)バミューダ最古の歴史もつ本格的なリゾートホテルで、最初の建物は島の発展の歴史の中で1884年9月に2階建て200室の本格的なホテルとしてハミルトンの現在の場所にオープンしこれまでも英米カナダの著名人が宿泊したホテル。

当時としては画期的なホテルでビリヤード、カードルーム、スモークルームに加えて清水、海水バス、温冷水バスまで完備していたというからすごい。

部屋数 :410室、デラックスルームにはバルコニーが付いてハミルトン港を行き交うヨットやクルーズ船が一望できるほかゴールドメンバーには特別のサービスもあります。



現在は米国とカナダに19のシティホテルと12のリゾートホテルをそしてメキシコ及びバルバドスにも2つのリゾートを有するフェアモントホテルグループの一員となっています。

ここバミューダには島の南側にリゾートとして名高いサザンプトンプリンセスも系列のホテルとしてある事から。仕事などではハミルトンのプリンセスそしてリゾートにはサザンプトンを利用するのがベター。

サザンプトンにはプライベートビーチやゴルフコースまでであることからコース利用の優先予約などもできるほかイルカと遊ぶ Dolphin Quest やスパも用意されていますのでご家族でのお泊りにも適しています。

料金はシーズン中は通常のスタンダードツインで415米ドルから、オフシーズンで279米ドル(税別)程度からとなっています。また、3泊4日のゴルフやイルカ又はスパがセットになったパッケージ料金も各種用意されています

ゴルフ

冬場、凍りつくような大都会ニューヨーカーから飛行機でわずか2時間の所に温暖で風光明媚なバミューダがあるのですからゴルフ好きにはたまりません。絶対的なコースの数は7つと少ないですがバミューダはゴルフ場の占める面積が国土面積比率で世界1の国なのです。

問題は、メンバーの紹介が必要なコースが多いことですがこの場合ホテルのコンシェルジェに頼めばOK。そして混んでいる事、プレイが天候で遅れたりゆっくり進む事は覚悟してください。

ゴルフアカデミーオープン

サザンプトンとポートロイヤルゴルフコースの間のミドルロードから少し離れたところにバミューダゴルフアカデミーが新しくオープンしました。

スポーツバーも全天候型練習場に併設されていますので遊びがてら一振り練習後ゴルフチャンネルでも見ながら一杯、直ぐに友達になり次は一緒にコースを回ることになるかも知れませんよ！電話 :1-441-238-8800

ワンポイントアドバイス

ここの打ちっぱなし練習場は広くそして芝生に向かって打つのでグッドです。

ゴルフ場	場所、料金等	連絡先及び備考
ST.Georg's Golf Course	セントジョージの町から徒歩圏にある最も新しくそして美しい海岸線のコース。難点は最も風の影響するコースです18ホール、パー62、4,043ヤード、\$ 57ドル/18ホール 午後4時以降のプレイには割引あり	TEL 297 - 8353 カー Hは \$ 24ドル レストラン、プロショップ レッスン料 :\$ 50/30分
Mid Ocean Golf Club	世界でのトップランクのチャンピオンシップコースでメンバーの紹介予約が必要。 18ホール、パー71、6,547ヤード、\$ 190ドル/18ホール	高級住宅地 Tucker's Town内にある。 TEL 293 - 0330
Ocean View Golf Club	ハミルトンの町からわずか7分程度の距離が魅力のコース 9ホール、パー35、2,940ヤード 平日 :\$ 55ドル、日、祝祭日 :\$ 60ドル 午後3時以降のプレイは \$ 30ドル	Devonshireにある TEL 295 - 9093 カー Hは \$ 12ドル レストラン、プロショップ
Southampton Princess Golf Course	18ホール、パー54、2,737ヤード、\$ 66/ドル18ホール ホテル敷地内のパー3のコース テニスコートも併設	Southamptonにある。 TEL 238-8000 プロショップ、バー
Riddell's Bay Golf Club	1922年開業の最も老舗のクラブでメンバーかホテルの紹介予約が必要、ロストボール対策を十分にしようが！ 18ホール、パー70、5,713ヤード、平日 :\$ 110/18ホール カート(お一人当り):\$ 25ドル、レッスン料 :\$ 40ドル/30分	Warwickにある。 TEL 238-1060 レストラン、プロショップ バー
Port Royal Golf Club	バミューダ政府運営の人気のあるコースです 18ホール、パー71、6,561ヤード 月 - 金 :\$ 95ドル/18ホール 土、日、祝祭日 :\$ 105ドル/18ホール、午後4時以降は割引あり	TEL 234-0974

その他のスポーツ

ボーリング

ボーリング場は次の2つがあります。

ワーウィックレーンボーリング場 (Warwick Lanes) TEL 236-5290

24レーン、コンピュータースコア-システム採用の本格的ボーリング場。

料金 大人 \$ 4ドル/ゲーム、子供 \$ 2.5ドル/ゲーム 貸し靴料 : \$ 1.5ドル

サウスサイドボーリング場 (Southside Bowling) TEL 293-5906

料金 : 11-15時 大人 \$ 2.5ドル/ゲーム、15-20時 大人 \$ 3ドル/ゲーム、20-23時 大人 \$ 3.5ドル/ゲーム 貸し靴料 : \$ 1ドル

ホエールウォッチング

3月、4月はここバミューダでも鯨が見られます。この季節だけですがこのときに多くの鯨見物ツアーが組まれますので是非参加をしてみたいかがでしょうか。

申し込み等はホテルのツアーデスクやダイビングショップなどでできます。

通常、午後からのスタートで料金は約 \$ 70ドル程度

スキューバダイビング

なんと言ってもここは海もきれいなところ、自然ダイビングは盛んです。これもホテルなどのデスクや直接ダイビングショップで予約するのがベター。料金はリフレッシュ・コース (昼から約4時間ほどで機材レンタル込み) で約 100ドル。また、免許を持っていない人たちにはトライコースもあります。

その他

無いものが無いほど多くの海洋性のスポーツができます。

まず、イルカと遊ぶことはナールドックヤードのマリタイムミュージアムで行われています。詳細は次のホームページ参照のこと。 <http://www.dorlphinquest.org>

定番のシュノーケリングにウインドサーフィン、パラセーリングにジェットスキー。自分で漕ぐならやはりカヤックだし風に任せてのセーリングも最適、もちろん自分自身で動きたくない皆さんにもちゃんとサンセットクルーズ、ボトムグラスボートなどが用意されています。

いずれも、観光案内所またはホテルのフロントに多くのパンフレットが置いてありますのでよく比較検討して申し込むようにしてください。

その他の情報

通貨

バミューダ・ドル(Bermuda Dollar)略号はBD\$がありますが、BD\$1=US\$1と米ドルにリンクしているばかりか実際は米ドルが流通貨幣。

電話

ホテルの部屋からだ料金が高いので公衆電話利用がおすすめです。この場合 "コーリング・カード"または "キャッシュ・カード"(10、25、50米ドルが有る)を最寄の自販機や観光案内所などで購入してかけるますが勿論、主要なクレジットカードも利用可です。

日本へかける場合

011 +81 (日本の国番号)+ 日本国内の電話番号 (市外局番の最初の0は取る)

日本からかける場合 (マイライン未登録者は001の後に010を2003年5月1日から必要)

001/0033/0041/0061-1 (アメリカの国番号)+441(バミューダ)+相手先の電話番号

電気

電圧 110ボルト、周波数 60ヘルツ プラグは英国式と米国式ですがたいていのホテルでは日本と同じ二つ穴の充電器などが使用できるようになっています。

郵便

郵便事情は良い。約10日で日本に到着する。ハガキの場合10グラム以下では料金90セント

新聞

バミューダで一番売れてる新聞は『ロイヤル・ガゼット』。一面には大抵バミューダの記事が載る。天気図は手書き。日曜は発行されない。

水曜日と金曜日は項目別の広告欄が充実するので売り切れることも多い。駐在員らの異動が激しいのでいわゆる『売ります・買います』欄は大人気である。

『バミューダ・サン』これは週二回、水曜と金曜に発行される。こちらも『売ります・買います』欄が人気。

日本との時差

通常は日本時間から-13時間そして夏時間 (4月最初の日曜から10月最後の日曜まで)は-12時間です。

チップ

英国領でもありチップのシステムは幅広く行き渡っています。ですから1ドル紙幣は多めに交換して常時もって置くように心がけるのが良いでしょう。目安としてはドアマンやポーターには荷物1個につき1、2米ドル。レストランやバーでは請求金額の15程度です。

面倒みたいですが、楽しい旅には必要経費と思ってください。



1)バミューダにないもの

最近ではないところがほとんど無いほどなのに、ここにはマクトナルトがありません。ケンタッキーフライドチキンはあるのですが、現地ではマクトナルドとバミューダ政府の間でもめたためだと言うことですが本当のことは分かっていません。

2)スーパーマーケット

チャーチストリート沿いカテドラルの丁度斜め前にThe Market Place という大きなのがあります。嬉しいのがレトルトの天井、うな井がそれぞれ7ドル、8ドルそしてお寿司詰め合わせなども7ドル程度で意外と安いので使い勝手があります。また、デリカは重さでいくらですから自分で好きなものを取ってレジで計算します。

それ以外でも、意外な食料品を見つけることも有ってみるだけでも楽しいですよ！それにホテルの飲料は高いのでここで買って持ち込みましょう

3)岸車のレンタル

日本と同じ左側通行で小さな島ではあり移動には確かに便利なものですが注意が必要です。と言うのも意外と道標が少なく、その矢印も確かにたどり着けるのですが回り道だったりします。また道幅がせまく歩道も大きな町中以外ではありませんのでバスなどが追い越す時や歩行者をカーブで曲がったときに見つけるとハットします。つまりは、一度バスなどに乗って観察してから乗られることをお勧めします。なめると怖い目にあいますからね！

4)ビーチを選ぶポイント

大切なのは天気、それに風向きです。バミューダのビーチはピンク色で細かくそれはきれいですが天気であることと波が静かなことが条件です。ですからもし東風が吹いていると反対の西海岸へそして西風の場合は東海岸を選ぶのです。

ところが、エルボービーチやホースショーベイそれにピンクビーチなど有名な砂浜は全て東海岸にあるのです。ですから西風の時がベストとなるのですが！

5)安全性について

町中で危ないと感じたことは無かったが滞在中にも新聞にセントジョージの Duke of clearance Street で15,000ドル相当のコカイン所持で逮捕したとの記事が載っていたり若年層へのドラッグ蔓延への注意が載っていたりして暗い町外れには近寄らないことが必要。

島国独特の注意事項



6)水不足

基本的に島国なので余り雨が降らない異常気象が続いた過去に断水を経験しているため、前もってこの程度の情報は得てから行くほうが賢明。もちろん普通の年だと全く問題がありません。むしろスコールによる雨対策の方が必要です。

7)ハリケーン(台風)

日本と同じ**9月以降**のシーズンに特に注意が必要です。通常、西方海上から島に近づいて来ますし相当前からハリケーン情報が頻りにTVなどでも流されますのでこれに注意しながら早めに予定を切り上げるかしないと飛行機も予約が一杯になったりし逃げるが出来なくなってしまう。

なお、クルーズ船の場合は船主、船長の判断で早め目に退避処置を取りますし場合によっては入港地を変更するなどしていますのでこの点ではかえって安心です。

8)高潮による被害

海面から低い島では高潮によって水浸しになったりします。実際バミューダでも1960年、1961年には40Cmも上昇しセントジョージのキングスクエア - なども水に浸かってしまったことが有りましたし、最近でも1990年に経験しています。

9)トローリング

何と言っても、バミューダはトローリングにも最適の場所、ただ、10月にもなるとカジキなどの大物からカマスに対象魚がなりますのでチェックしていきましょう

まあ、カマスといっても大物は30ポンドもありますのでそれなりに楽しめますが！

経由地
ニューヨーク
の最新、耳
よりの情報



1) 両替

9月24日 JFK空港での両替で米ドルと円の交換レートをチェックしたらTTSが136.4329円でTTBが111.7223円だった。何と売りと買いで12.3553円もの手数料を取っていた。日本の信用がそこまで下落したのか暴利をむさぼっているのか？結果は日本の空港で両替するほうがお得！！

2) 日本食ブームも下火？

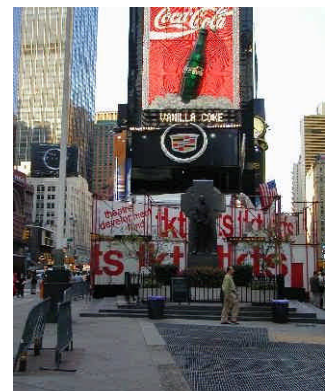
20軒有った寿司の大吉寿司チェーン店が12軒にまで閉店したりして減っていたり友人の話でも最近では余り食べに行っていないとのことで日本食ブームも一段落している様子

でも、ミュージカルなどを見た後だと夜も10時半を回り余りホテルでゆっくりしたいところ。

このような時、ここ大吉のブロードウェイ店で盛り合わせ6ドルを買って帰ってゆっくりと夜食にすると最高かも。やはり日本人とを感じる瞬間。

3) ブロードウェイのチケットで見た予想

残った当日券を安く売っているがチケットで毎日ブロードウェイのミュージカルのチケットを買って思ったことは当日の夕方6時を回っても入手できた”オペラ座の怪人”アイ・ダ”レンド42ストリート美女と野獣”等はまずいつでも買えたことから近い将来終幕を迎えるのではないかと心配？



4) 空港までの交通状況

ミッドタウンとJFK空港間のタクシー所要時間は6時までの早朝で40分、7時を回ると約1時間そして8時にもなると分らなくなりますので要注意です。お勧めはシャトルサービスの利用で飛行機の出発時刻を言えば逆にホテルでのピックアップ時間を指定してくれますから安心しかも17米ドルでOK

5) NYは安全？

早朝04:00ごろと深夜12時過ぎにミッドタウンからハドソンリバーまで歩いてみました。全体的には24時間オープンのお店もあって問題はなかったのですがさすがにコールガールが立っていたり若者達が群れているのを見ると避けて歩きました。

6) 米国人も変わり身が早い？

3ヶ月前の2002年6月にはまだAMERICA UNITEDのワッペンや胸や帽子などのバッジや車に国旗を掲げていた人達がいたのに9.11から1年経過した9月末に行くときさっぱり見かけなくなっていた。自分が遅れているのか米国人といつかニューヨーク人の変わり身が早いのか驚いた

7)飛行場での機内持込品検査

まず、100%手荷物はオープンされると思っていたほうが良いでしょう！しかも 検査官からドントタッチと言われ一切自分は触れませんから終わったあとはめっちゃくちゃです。彼らが出しやすく入れやすいようにしておくことをお勧めします。

もちろん、サンフランシスコやロスアンジェルスなどで乗り換えの時、搭乗が始まりチケットを機械に通した後に通路で待っていて抜き打ちに再度検査されたりもしますので油断できません。特に一人旅の方々！

8)いつでもパスポートを提示できるように

飛行機がターミナルと接続したドア - が開く直前に機内アナウンスで出たところの通路でパスポートのチェックを行いますと急にアナウンス。このように今の米国ではいつ提示が求められても良いようにしておかねばならないようです。

9)携帯電話は要注意

飛行機が到着しロビーに出るなり電源を入れ話をしていたりすると没収されるトラブルが空港と警備担当者によっては起こっています。日本人など外人は特に注意が必要です。ただ、待合所の椅子の腰をおろしている場合は問題がありませんからご安心を

10)おいしい話

JFK空港内の Peets Coffeeで飲んだSwirl これがおいしかった。4.96+税金0.41=5.36米ドルと少し高めだが適度に苦いミルクコーヒーフロートのような味がグッドです。是非試してみてください。

11)お得な話

ニューヨークに行くなら是非、地下鉄、バス乗り放題の1日券を駅などで買おう！たった4ドルでメトロカードが買えて安い。

更なるお得な話

また、これを利用して地下鉄のNまたはR線でWhite Hall St/ South Ferry駅まで行きそこから地上に出ると直ぐスタテン島行きのフェリーが出ています。これに乗船して下さい。ニューヨークの摩天楼、ブルックリン橋などの景色を海から望めるばかりか自由の女神の直ぐ横を通過する最高の港内遊覧が出来ます。しかもこれが無料なので嘘のような本当の話です。



バミューダと日本の新しい経済関係に関するニュース

英バミューダ社、金融特区参入に意欲

世界規模で損害保険事業を展開しているエース・グループ(*注1)傘下の英国領バミューダ島でキャプティブ(親会社専属の保険子会社)を運営しているエース・バミューダ社は現在、日本経済再生プランで計画されている金融特区に進出を検討中。

バミューダ政府のアドバイザーや委員も務めるロジャー・ジレット上級副社長らが来日、名護市の金融特区の視察をして沖縄の金融特区に参入したいという強い意欲を示しています。

(*注1)エース・グループの母体であるエース・リミテッド(本社・バミューダ、ブライアン・デュペロー最高経営責任者)は1985年にBMやGE、デュポンなど、米国の大手企業34社が共同出資するキャプティブとして設立。各種損保事業を吸収し、99年にはシグナ保険の損保事業部門を取得。現在、約50カ国に8000人の従業員が世界におり、国内には損保などを取り扱うエース損害保険がある。

編集・発行者

アドバンスド・マリン

クルーズトラベラー編集委員会

<http://www.cruise-traveler.com>

E-mail: info@cruise-traveler.com

無断転載 無断複写を禁じます